

# 京都の福祉

発行 京都府社会福祉協議会



2011  
**5**  
No.510

本紙は、共同募金の  
配分金によってつくられています。



## 主な記事

- 1面…もえくさ
- 2面…新会長就任挨拶
- 3面…京都CSR推進協議会発足
- 4・5面…「東日本大震災」の被災地支援の報告②
- 6・7面…平成23年度京都府社会福祉協議会業務体制
- 8面…うちのこれがイチオシ

山元町災害ボランティアセンター

## もえくさ

▼世界で日本ほど地震に対し周到な備えをしてきた国はないと言われてきた。しかし、東日本大震災は、その備え、想定を遙かに超える壊滅的な被害を受けたことに加え、安全と言われていた原子力発電所の事故というこれまで経験したことのない大災害となった。▼この未曾有の大震災から2か月になる。今も10万人以上の方々が避難生活を余儀なくされているが、長引く避難生活も限界にきているのではない。落ち着きを失わずに助け合ってきた被災者の方々も、生活再建の見通しも立たずに耐え続けるのは難しい。▼避難生活の長期化が必至の中で、懸念されるのは被災者の心のケア。家族や友人との別離、助けられなかったという自責の念、財産や大切なものを失った喪失感、将来への不安、疲労やストレスなどにより体の変調を訴える人が増えているという。▼また、福祉施設や福祉避難所が満杯で一般の避難所で避難生活を送っておられるお年寄りや障害のある方々など多い。救助されて命を取り留めても、避難した先で必要なケアに結びつかなければ再び生命が脅かされることになる。▼被災地ではこうした方々に寄り添い、適切なケアをするために多くの医療機関や専門機関、NPOやボランティア団体などが様々な支援活動に取り組んでいるが、支援の手が行き届かない方々も多いと聞く。阪神淡路大震災では震災関連死が900人以上と言われているが、今回もすでに多くの方が亡くなっている。▼国においては、復旧に向けた4兆円超の第1次補正予算が成立し、「復興構想会議」は第一次提言を6月末をメドにまとめることとなっている。被災された方々に将来への希望を持ち続けてもらうため、将来を見据えた復興ビジョンを一日も早く示し、被災地に希望と安心を届けていきたい。▼が、その前に、政府、自治体には、震災関連死は人災であり一人も出さないという強い決意のもと、早急に福祉避難所の確保や仮設住宅の建設、雇用や生活再建に向けた取組を、そして、一人ひとりに向き合ったきめ細やかな施策を期待したい。▼我々国民も、被災された方々を孤立させないよう、一人ひとりができることでその再生への長い道程を支え続けていかなければならない。



# 新会長就任挨拶

京都府社会福祉協議会

会長 柏原 康夫

第275回理事会（平成23年4月16日開催）において、京都府社会福祉協議会会長に就任いたしました柏原康夫でございます。

はじめに、去る3月11日に発生した東日本大震災により、痛ましい犠牲となられた方々に対し謹んでご冥福をお祈りいたしますとともに、ご遺族の方々、さらには今なお厳しい避難生活を余儀なくされておられる多数の方々に衷心よりお見舞いを申し上げます。被災地の復興、被災者の生活再建のためには、私どもとしても、息の長い支援活動を進めていくことが必要であると存じております。

さて、長引く不況による深刻な雇用情勢や、地域における福祉課題の複雑・多様化、核家族化や地縁社会の崩壊などにより、人と人とのつながりが希薄化し、「無縁社会」といわれる状況が生まれております。

それだけに今こそ、誰もが住み慣れたまちで安心して暮らせる地域づくりをめざす、社会福祉協議会の出番のときであると存じます。

こうしたときに、会長という大役を仰せつかったことに對しまして、責任の重大さを痛感し、身の引き締まる思いでございます。

京都府社会福祉協議会では、立石義雄前会長のリーダーシップの下、「安心と希望の持てる支え合いのまち京都」の実現を目指し、「社会的孤立を見逃さない地域づくり」「企業CSRと福祉の協働」など、四つのアクションプランに基づく事業を展開してまいりました。

私といたしましても、これらの業績を継承し、微力ながら皆様方と連携・協働して、京都府の地域福祉の向上に最善を尽くしてまいりますので、引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 社会福祉施設 しせつの損害補償 総合損害補償

ホームページでも内容を紹介しています。  
<http://www.fukushihoken.co.jp>

### 社会福祉施設のさまざまなリスクに対応するために！

#### プラン1 施設業務のための補償

（賠償責任保険、普通傷害保険、動産総合保険）

##### ①基本補償

- 基本補償（A型）は、法人業務中、法律上の賠償責任が発生した場合、包括的に補償
- 見舞費用付補償（B型）は、賠償責任のない場合の見舞金が充実

- オプション1 訪問・相談等サービス補償
- オプション2 施設の医療事故補償

##### ②個人情報漏えい対応補償

- 個人情報漏えいによる法律上の賠償責任を負った場合（おそれのある場合を含みます）に補償

##### ③施設の什器・備品損害補償

- 施設内の什器・備品を幅広い範囲で補償
- 施設の現金等も補償

#### ◆加入対象は、社会福祉法人等が運営している社会福祉施設です。

全国社会福祉協議会のスケールメリットを活かし、充実した補償内容です。

#### プラン2 施設利用者のための補償

（普通傷害保険）

- ①入所型施設利用者の傷害事故補償
- ②通所型施設利用者の傷害事故補償
- ③施設送迎車搭乗中の傷害事故補償

#### プラン3 施設職員のための補償

（労働災害総合保険、普通傷害保険、約定履行費用保険）

- ①施設の労災上乗せ補償
- ②施設職員の傷害事故補償
- ③施設職員の感染症罹患事故補償

●この保険は全国社会福祉協議会が保険会社と一括して契約を行う団体契約（「賠償責任保険」「普通傷害保険」「労働災害総合保険」「約定履行費用保険」「動産総合保険」）です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問合せは下記にお願いします。

団体  
契約者  
社会福祉法人  
**全国社会福祉協議会**  
（引受幹事保険会社） 株式会社 損害保険ジャパン

取扱  
代理店  
株式会社 **福祉保険サービス**  
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F  
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763

去る平成23年4月22日(金)、京都府立総合社会福祉会館(ハートピア京都)において、京都CSR推進協議会(以下、「協議会」という)の設立総会が開催されました。協議会は、中小企業や小規模事業者のCSRを支援することを目的として、京都府内の6つの経済団体、本会を含む3つの中間支援組織、京都府・京都市の行政で構成されています。代表には元オムロン株式会社副社長の明致親吾氏、副代表には京都府中小企業団体中央会専務理事の鞍掛 孝氏、本会常務理事の宮本隆司が選出されました。

一般的に企業の社会的責任と訳されるCSRは、

## 京都CSR推進協議会発足

### 中小企業や小規模事業者のCSRを支援！

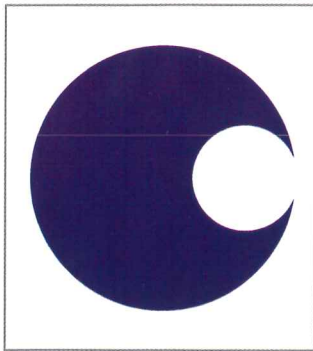
粉飾決算や食品偽装などが相次いで発生する中で、近年、社会的な関心が急速に高まっているものです。大企業ではもはや取り組むことが当たり前となっていますが、中小企業や小規模事業者で

CSRとして位置づけて取り組んでいる企業は、まだまだ少ない状況です。しかしながら、近江商人の「三方よし」の考え方や京都の老舗の家訓など、CSRで言うステークホルダー(利害関係人)を大切にしている経営をされているところは多く、こうした企業では自然とCSR経営をされていると言えます。今回立ち上がった協議会は、CSRの基本的な内容を「社会の信頼を築く基本指針」として掲げ、全企業の99・7%を占める中小企業・小規模事業者がCSRの考え方を広め、その取り組みを支援し、光のあたりにくい中小企業・小

規模事業者の取り組み事例を発信することを目的としています。

平成23年7月より本格的に活動が開始される京都府内の中小企業・小規模事業者の取り組み事例などが紹介されるホームページが立ち上がるほか、シンポジウムの開催も予定されています。

本会は京都CSR推進協議会に参画し、平成19年度から取り組んでいる企業の本業・CSR活動と福祉のノウハウ・資源を結びつける「きょうと福祉パートナー事業」の取り組みを生かして、中間支援組織の立場から福祉施設・団体と企業(経済団体)とのマッチングを進めていきます。



京都CSR推進協議会  
ロゴマーク



# 被災地支援の報告 2

被災地の支援活動として、現在も京都府内の社協は、宮城県内の社協への職員派遣を行っています。

今号は、第4クール(3月30日～4月6日)、第5クール(4月3日～4月10日)に災害ボランティアセンター運営支援を行った社協職員の報告です。



名取市  
災害ボランティア  
センター

活動に利用した機材を洗うボランティアスタッフの様子



ボランティアセンターの様子

## 今後私たちにできることは…

このたびの震災では、津波という自然の脅威をまざまざと見せつけられました。が、復興支援の長期化が予測される中、2市2町の丹後ブロック社協ではまず事務局長が被災地に行き現状をしっかりと把握することとし全員第5クールへの参加としました。

私は宮城県名取市に、また他の事務局長は塩竈市に派遣されました。両市内の沿岸部や閑上(ゆりあげ)地区の凄惨な被災状況を目の当たりにし、それぞれ言葉も出ないくらいの衝撃を受け、改めて胸が痛み呆然となりました。

両市の災害ボランティアセンターには、連日200人以上のボランティアが来られ、家屋の泥のかきだしや、家族にとって思い出深いアルバムの整理等をされていました。私は主にボランティアを現地へ派遣する送迎班の業務を担当しました。役職員やスタッフ、ボランティアなどみんなが丸となって温かい声をかけながら活動されておられる姿にふれ、何度も目頭が熱くなりました。

4月7日午後11時33分に震度6強の余震があり、地震の怖さを改めて感じましたが、3月11日の地震発生直後に押し寄せた巨大な津波は、家族や親せき、友人等多くの方の「生命」や「家屋」「職場」そして「地域」という財産を一瞬にして奪いました。近所の方の「津波が来るからあなたは早く逃げて!!」との叫びでようやく一命を取りとめたという現地の人の話も聞きました。

大切な方を亡くされた遺族の方や過酷な状況で避難所生活をされておられる方、今まで縁のなかった遠い土地へ避難されている方々の深い悲しみや苦しみにいかに寄り添った活動を展開していくかが課題であると感じましたし、社協職員として、それぞれ自分たちにできることは何かを考え実行していくことが重要だと思いました。

報告者

京丹後市社会福祉協議会  
事務局長 安田 秀俊

## ボランティアから感じた熱い思い

宮城県塩竈市の災害ボランティアセンターは、震災の2日後の3月13日に開設し、その後も県外のボランティアを受け入れるなど、迅速な対応をとってこられたセンターでした。私はこのセンターに派遣され、たくさんの経験をさせていただきました。

センターのスタッフは、大半が塩竈市社協の職員でした。彼らは通常の社協業務も

行いながら、センター開設以降ほぼ休みなしの状況でした。しかし、そのような過酷な状況でありながら笑顔を絶やさず働いておられ、頭が下がる思いでした。

私は主に、マッチング業務というボランティア活動を希望する方々へニーズを紹介する仕事を担当させていただきました。その中で、ボランティアの方々の何か役に立ちたいと

# 「東日本大震災」の

山元町  
災害ボランティア  
センター

塩竈市  
災害ボランティア  
センター



山元町の様子（4月5日）



塩竈市災害ボ

## 支援活動で私が学んだこと

私が支援に入った山元町は、福島県との県境に位置し、国道6号線が町を縦断、国道を境に山側・海側に2分され、海側は津波の被害で何もない状態でした。震災後すぐ京都新聞紙上で「自動車学校に行った娘さんを両親が搜索されて送迎バスを見つけ」、と記事になった町で、その娘さんが降りた常磐線の駅舎も、自動車学校も跡方が分からない状態でした。その光景を見た時のショックは言葉では言い表せないものでした。

私たちの活動は、現地社協職員に寄り添うことだったと今思っています。「何かしなければ、住民のニーズは」という思いは現地社協職員全員が持っている。分かっているけどできないもどかしさと自らも被災者というしんどい中で、震災後から不眠不休で働いている職員、その現実を目の当たりにして「何ができていない・こうしたらよい」等と言ったことはできませんでした。事前に「災害ボランティアセンター機能の立ち上げが不十分」という情報がある中で

援ができなかったことは確かです。ただ私にとって少しでも震災支援に関われたことは大変感謝すべきことであり、今後機会があれば支援活動に関わっていきたいと考えています。

報告者

久御山町社会福祉協議会  
専門員 石原 勝利

現地に入った私は、その評価が何を基準にしているのか、現地社協を気の毒に思うとともに、現地社協職員の頑張りが評価されていないと感じました。被災状況をしっかりとふまえ、職員の思いを評価することこそが大切で、その思いに寄り添う活動をしていくことが何よりも私たちの支援の姿ではないかと感じました。

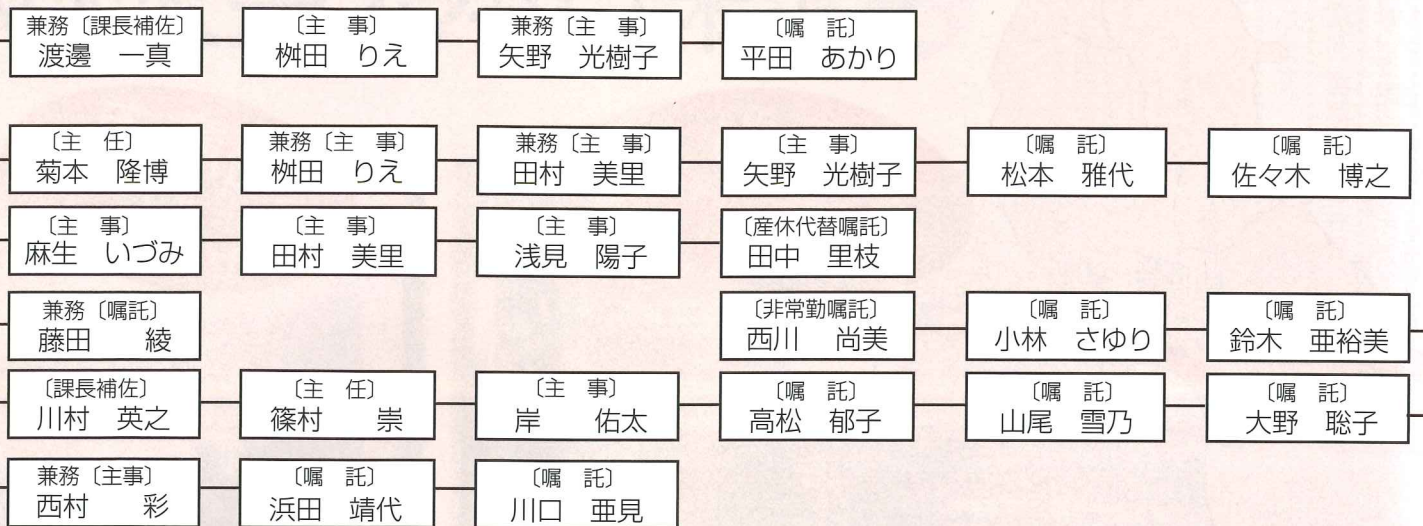
支援活動は、現在の到達点と方向性を確認してスケジュール表を作成、職員全体で自らの業務を振り返るという作業の手伝いを行いました。その中で、日にちや曜日の感覚も無いほど職員が精一杯できることをしていたというのが事実です。一歩一歩活動をすすめている山元町「ガンバロウ山元町社協」という言葉を捧げます。

報告者

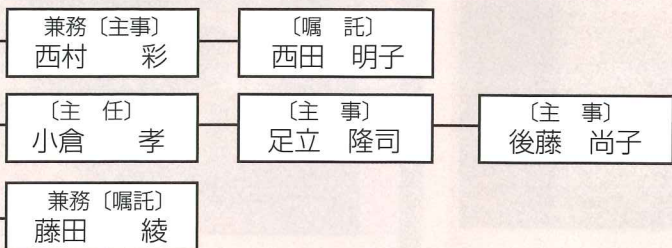
京丹波町社会福祉協議会  
事務局長 桐野 正則

# 社会福祉協議会 業務体制

平成23年4月1日



〔総括支援員〕川崎 清、〔相談員〕解良 典子、平松夕紀子、松村 貴世子、〔求人開拓員〕日比野 久美枝、河村 弘美  
〔北部福祉人材カフェ求人開拓員〕畠中 智、上田 哲志  
（※北部事業の責任者、支援員及び相談員は経営協委託）



福祉人材カフェ（北部）



福祉部

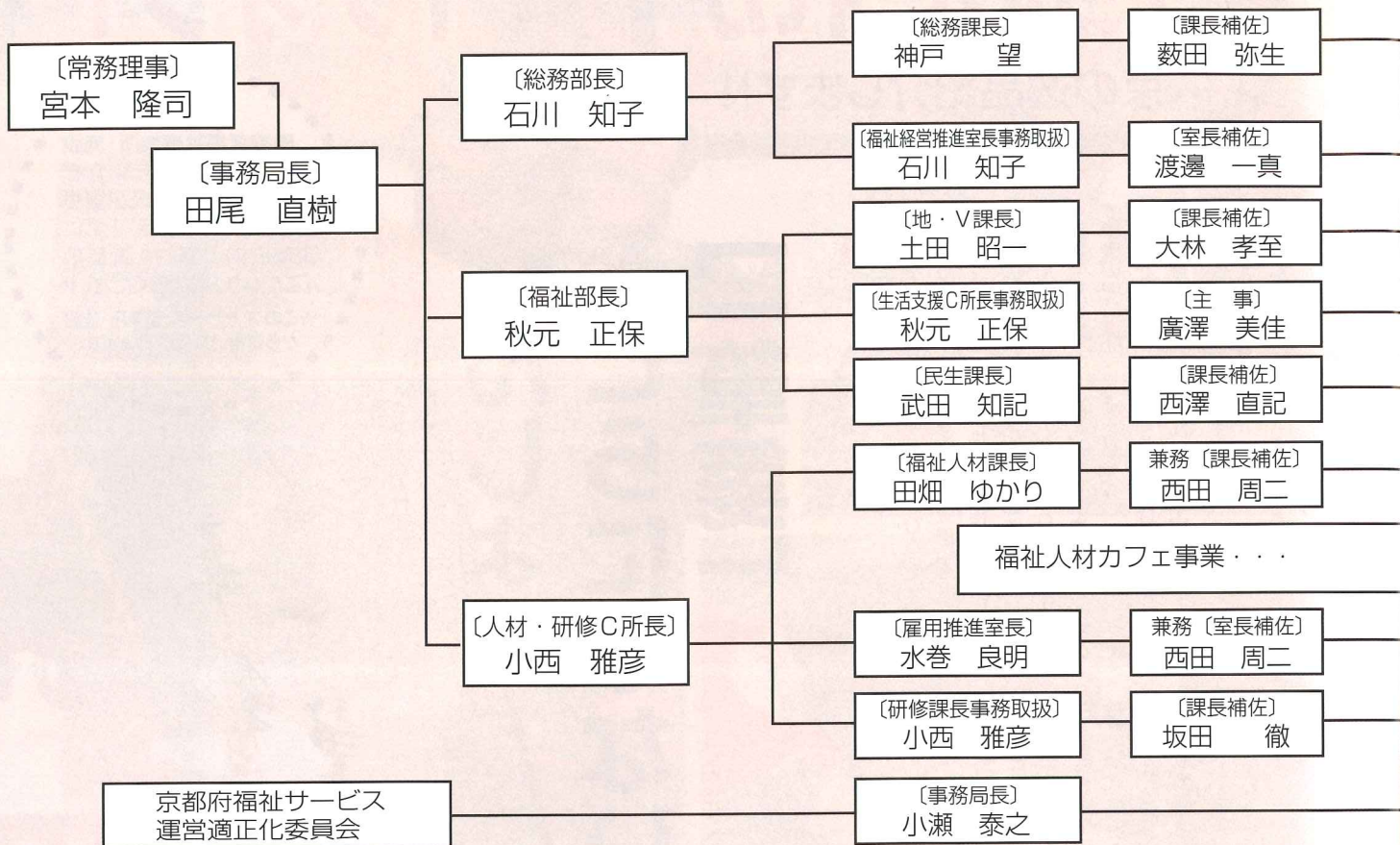


福祉人材カフェ（南部）



京都府福祉人材・研修センター

# 平成23年度 京都府



## 新任職員紹介

福祉人材・研修センター  
所長 小西 雅彦

四月一日付けで福祉・人材センター所長を拝命いたしました。若いころ少し福祉の仕事に関わった経験はありますが、この二十年近くの福祉分野の動きは、当時予測した以上に大きく、毎日戸惑いながらも、皆さんに支えられ仕事に取り組んでいます。

東日本大震災はいまだに被害の爪あとを刻印したまま、復旧のめども立たない深刻な状況で、その影響は相当長期間にわたり、社会・経済の仕組みそのものに大きな影響を及ぼすことが懸念されています。このような時代だからこそ、府民の誰もが安心して住み続けられる地域社会づくりに向けて、福祉サービスの人材確保、定着・資質向上などの府社協の基本的役割が果たせるよう精一杯努めてまいりますので、皆様方のご指導、ご協力を宜しく願います。



管理職



総務部

# うちのこれがイチオシ!

京の逸品紹介します!!

障害者福祉事業所・施設のイチオシ商品を紹介するコーナーです。商品誕生のきっかけや“秘話”と共に、京都府内の隠れた逸品の「こだわり」をご覧ください!

☆このコーナーは、事業所・施設から寄稿いただいています。

## そんじょ そこらにはない 「一筆箋」

友愛印刷の「一筆箋」は同じものがひとつとしてないと言わくらしい、利用者さん一人一人思い思いの色を使って「一枚一枚をスタンシル作業で作られています。」

その人が選ぶ色は自由、ほかしてみたり、濃くしてみたり、それはあざやかで色とりどりの花模様が一筆箋の中にいっぱいひろがっています。一冊20枚の「一筆箋」の中には20通りの花が…。

手をかけて心のこもった一筆箋はお客様の元へ…。買ってくださるお客さんはいつも中をあけてびっくり!「これが手書きさ!」「一枚一枚がうのっ!」とおどろいて下さいます。

そんな一筆箋は、もつと手をかけて心のこも

たところか…。

そこは表紙!実は表紙も一枚一枚手作りでシルクプリントされているのです。友愛印刷という名前だから「一筆箋も印刷だ」と思われがちですが、それはそれは心のこもった手作りの一筆箋なのです。今の時代なかなか手紙を書く機会が減ってきたけれど…。友愛印刷の「一筆箋」ならもらった方も必ず喜んで下さる事まちがいなし。友愛印刷の「一筆箋」をきっかけに好きな人へ手紙を送りませんか?

¥300

漢字Tシャツも好評発売中です

¥1,260

販売場所：友愛印刷・ほっとはあとセンター

ワークショップ友愛印刷  
京都府向日市上植野町吉備寺8-8

電話番号 (075) 932-4001  
FAX番号 (075) 932-4001

## 読者プレゼント

■5名の方に友愛印刷「一筆箋」をプレゼントします。

応募方法：「京都の福祉」の感想、氏名、住所、電話番号をご記入の上、ハガキ、ファックスもしくはメールにて右記宛にお送りください。(メ切：平成23年6月末)

なお、発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。また、商品は販売事業所・施設より直送いたします。(当選者の住所・氏名を事業所に提供いたしますのでご了承ください。)

■宛先

京都府社会福祉協議会「京都の福祉」担当 宛  
メール：so-mu@kyoshakyo.or.jp  
FAX：075-252-6310  
住所：下記のとおりです。



「京都の福祉」へのご意見、ご感想、とりあげてほしいテーマなどをお寄せ下さい。表紙の写真も募集中です。(テーマ「笑顔」)

本会へのご意見等は、左記URLの「お問合せフォーム」を通じてお寄せください。

## 京都の福祉

発行所 京都府社会福祉協議会  
発行人 宮本 隆司

〒604-0874 京都市中京区竹屋町通烏丸東入る清水町375  
TEL 075-252-6291 FAX 075-252-6310  
URL <http://www.kyoshakyo.or.jp>